廻船ルーフが、諸寄を支え、回遊し、つなぎます。

かつて北前船は、日本海沿岸の港々を巡りながら、人・物・文化を運んでいました。
本計画では、その航路になぞらえ、来訪者が活動の庭を起点に、異なる役割を持つ建物を巡りながら、諸寄の歴史や文化、人々の営みに出会う場を目指します。主屋では地域の日常に触れ、資料館では廻船問屋の歴史を学び、諸寄コモンズではイベントを楽しみ、離れで滞在する。それぞれの建物をひとつながりの「廻船ルーフ」がつなぎ、活動の庭がそれらを結ぶ場所となります。人々が回遊することで施設全体が機能し、地域住民と観光客が自然に交わる文化拠点を形成します。



観光客から地元利用者まで多様な利用方法にも柔軟に対応できる観光 / 文化拠点として、諸寄地区に受け継がれてきた資産をリノベーションすることで実現します。

各スペースをつなぎ一体感を生み出す通り土間の空間

利用客を迎え入れるため、公園側の土間を開き、人の流れを誘発します。また、奥へと引き込む交流空間により、シンプルでわかりやすいゾーニング計画とします。さらに、見通しの良い内部空間とすることで、利用客の視認がしやすく、高齢者・車いす利用者にとっても利用しやすい施設とすることで、管理運営もしやすいサービス動線を計画します。

ここでしか味わえない場所をつくる

観光客、高齢者、地域住民の方など、さまざまな人が「ここに来たら○○がある」と感じられるインキュベーション拠点をテーマに、地域の宝物を再編集する交流拠点を検討し、諸寄地区を肌で感じ、体験し、学び、ふれあえる場を考えます。さらに伝統建築の魅力を発信する施設として、みんなが利用しやすく集いやすい親しみある施設を目指します。



ひとつながりのゾーニング

敷地を超えた地域環境を取り込む

伝統建築らしい設えを残し活かすことで、計画が敷地の中だけで完結しないように公園と連続する計画とします。また、建物内に風穴をつくり光や風を取り込みながら、積極的に町とのつながりを生む計画とします。

多年代の子供や女性が安心して利用できる空間づくり

「井戸端ベンチ」や「縁側テラス」といった、子連れの家族でも利用しやすい配置計画とし、地域産木材を使用した家具や、木のぬくもりや匂いを感じられる素材選定を行い、長時間いても居心地の良い空間を作ります。



千原屋道盛邸の回遊イメージ

諸寄コンシェルジュ＋文化ギャラリー

諸寄の地域文化や伝統文化を魅力的に伝える情報コーナーや特産品の紹介、地域住民のための掲示板などを設けます。諸寄コンシェルジュは、施設の中央に配置することで、どこにいても分かりやすい位置とし、来訪者に向けて柔軟に情報を提供します。



諸寄コンシェルジュ



諸寄ギャラリー

とれたてマルシェ＋交流スペース

海産物や農家の野菜・果物を販売するマルシェ屋台など開催可能で、新温泉町の産業をアピールします。気持ちの良い日は、軒下や中庭の広場を利用し、内部から外の空間を取り込み、内外を一体的に使用して広く利用することができます。



みんなで調理体験

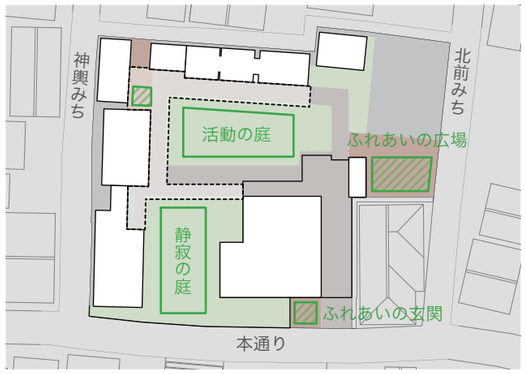


誰もが利用しやすい施設

伝統の外観を生かしながら、視線と風の抜けがある新しい千原屋道盛邸

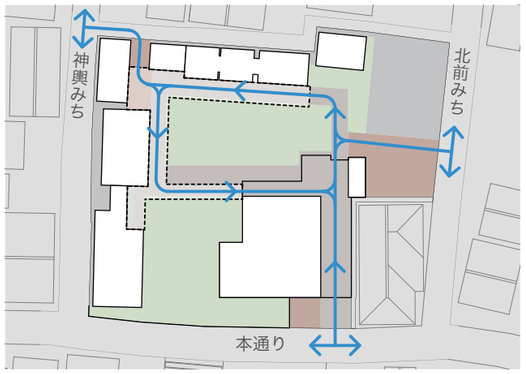
建物群を支える外部空間

4 つの庭を配置し、それぞれに「活動」「静寂」「広場」「玄関」といった目的をもたせます。庭が性格を持つことで、敷地全体に変化と回遊のリズムが生まれます。



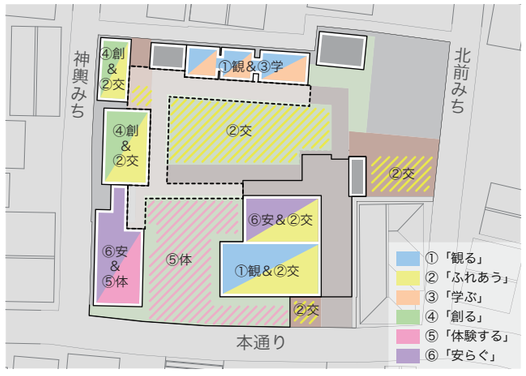
回遊しやすい動線計画

廻船ルーフと既存母屋の土間を中心に、まち全体を巻き込んだ、回遊性のある動線をつくります。
回遊すると諸寄の全てを感じられる仕掛けです。



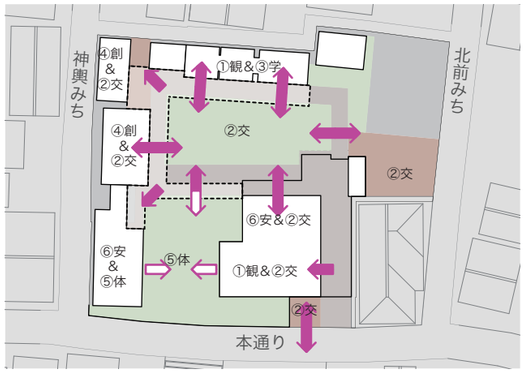
コミュニティの場を生み出しやすい配置計画

「観る」「ふれあう」「学ぶ」「創る」「体験する」「安らぐ」の 6 つの要素を「活動の庭」を囲むように配し、この庭を中心に諸寄のコミュニティを生み出します。



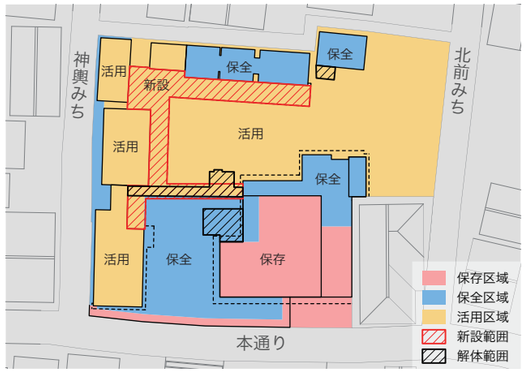
緩やかにつながりあう各スペース

すべての空間が直接面する「廻船ルーフ」と「活動の庭」を中心に置きます。開口部を大きく開ける設えとすることで、建物同士を内と外でつなげて利用できます。



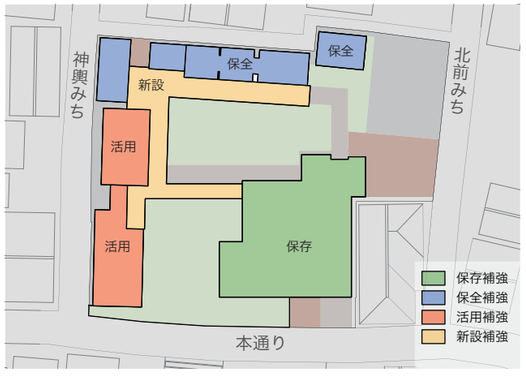
歴史と活動をつなぐ建物群（保存計画）

現況のすべての建物を活かします。主屋は近年の増築部分以外を復元とします。その他の建物は用途に合わせて、既存を活かしながら改修します。



耐震性の確保と災害時でも安心な施設計画

文化財的価値に応じた耐震補強を行います。意匠的価値を見極め、可逆性に配慮した計画とします。また、「廻船ルーフ」の鉄骨フレームで既存建物を補強します。



主屋が文化財活用の中心となり、新しいふれあいと憩いの風景をつくります。

主屋は保存・復元を原則とし、近年に増築された部分を撤去して、「活動の庭」へ大きく開きます。
文化財に宿る歴史を「観」ながら、地域や観光客との「ふれあい」を育み、静寂と活動の両方を「体験」する。歴史が、これからの諸寄をつくります。



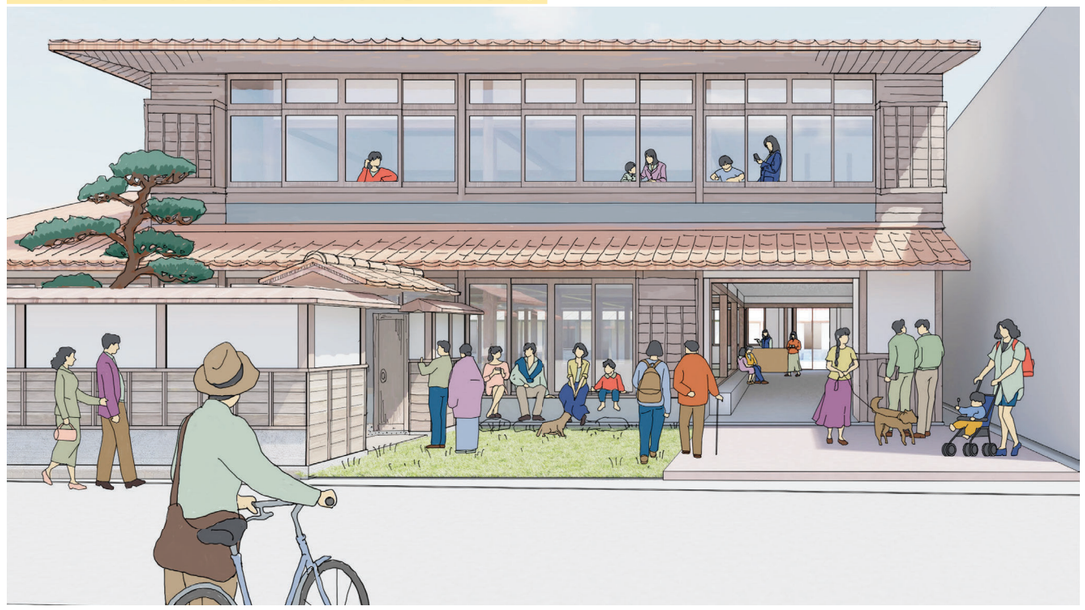
廻船ルーフと活動の庭が、まちの「これから」をつくります。

「廻船ルーフ」が既存の建物をつなぎながら、「活動の庭」を囲みます。その軒下を歩くことで、「観る」「ふれあう」「学ぶ」「創る」「体験する」「安らぐ」という諸寄のすべてを感じられる空間とします。主屋をはじめとする一部の建物は「廻船ルーフ」と「活動の庭」へ大きく開き、内と外が一体となって使える場とします。



主屋を整え、土間を通して建物とまちをつなぎます。

主屋の外観も保存・復元を原則とします。一方で、近年取り替えられた玄関建具は更新し、土間を大きく開ける設えとします。土間を通して主屋から活動の庭へと人の動きが生まれ、さらに土間の正面にあたる児童公園とつなげることで、まち全体のつながりをつくります。



倉庫/事務所
機能：収蔵庫
面積：約30m2
用途：旅館（申請有）

＜施設概要＞
管理スペース

体験工房
機能：工房
面積：約30m2
用途：博物館又は旅館（申請有）

＜施設概要＞
包丁研ぎなどのワークショップの開催を想定。
洗い場設備の設置

諸寄コモンズ
機能：シェアキッチン
延床面積：約60m2
用途：集会場又は旅館（申請有）

＜施設概要＞
料理教室や加工所としての貸し出しを想定
※ 運営例は別紙参照

＜設備＞
キッチン：製造業(保健所)
（惣菜/漬物など）

旅館
機能：宿泊施設
面積：約140m²
用途：旅館（用途変更無し）

＜施設概要＞
宿泊室：2室
団体客にも対応できる柔軟な計画
※ 運営例は別紙参照

＜設備＞
トイレ：2箇所
洗面　：2箇所
浴室　：2箇所

収蔵庫
機能：収蔵庫
面積：約55m²
用途：旅館（用途変更無し）

＜施設概要＞
既存から変更なし
外壁のみ改修

諸寄ギャラリー
機能：展示施設
面積：約55m²
用途：博物館（用途変更/申請無）

＜施設概要＞
北前船/廻船問屋/諸寄地区の資料を展示。

＜備考＞
段差解消について検討中。

レストラン
諸寄ラウンジ
通り土間
※ 別紙にて詳細

旅館又は多目的*
機能：宿泊施設
面積：約171m²
用途：旅館（用途変更無し）
*多目的の場合は用途変更

＜施設概要＞
宿泊室：2室
団体客にも対応できる柔軟な計画
※ 運営例は別紙参照

＜設備＞
トイレ：2箇所
洗面　：2箇所
浴室　：別棟利用

事務室に変更
2頭を一体的に且つ開放的に利用することを検討
倉庫に変更
蔵間と外構との段差解消について検討中
セキュリティゲート設置の検討
海からの帰りに体を洗えるシャワーを設置。
通用口追加の検討
旅館運営の場合
或いは
将来対応用に配管
工事のみ

※朱書き / 朱塗りはプロポーザル時からの変更・検討項目

新温泉町「廻船問屋千原屋道盛邸」整備基本計画
カイト・ノゾエ・エヌエム設計共同体

第7回検討委員会時点の整備案　2026/09/01　1/200 (A3)　プログラム整理